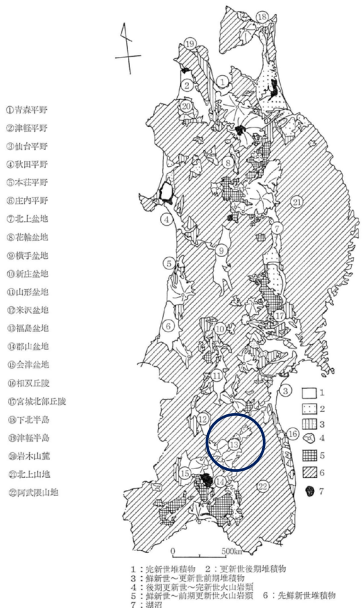
13.福島盆地

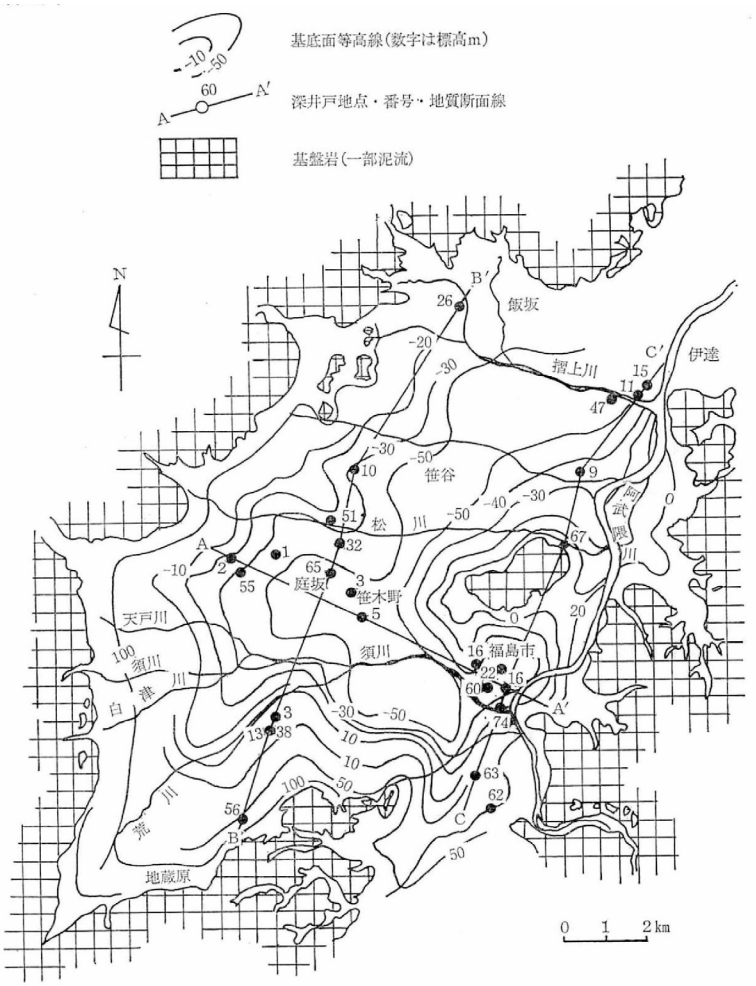


地形・地質

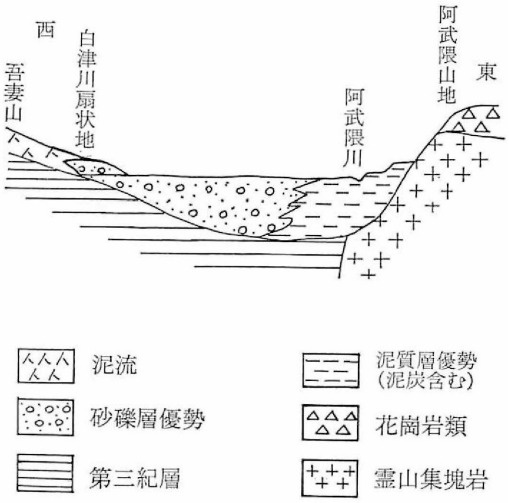
福島盆地は，北東から南西にかけて約 30km の長さを有し，中央部の伊達市南部を境にして，北東部の北部盆地と南西部の南部盆地に分けることができます。盆地の東～南側の山地は主として古期および新期の花崗岩類が，西～北側の山地は主として中新世の火山岩類を含む新第三紀の堆積岩類が基盤岩として分布しています。

地下水

南部盆地は、砂礫地盤の福島市街地および笹木野付近に深井戸が集中しています。不圧地下水は河川の伏流水，・扇状地末端の湧水，扇状地内の地下水があります。北部盆地は西部の段丘地帯の地下水は，鉄分を多く含み水質的な問題があります。阿武隈川沿岸地帯は自然の地下ダム的様相をし，豊富な地下水を包蔵しているようです。



福島盆地の第四紀基底面等高線図



福島盆地の模式地質断面図

出典　日本の地下水（農業用地下水研究グループ,1986）（一部加筆）

「日本の地下水」では全国の地下水盆の概要が紹介されています。各地下水盆の概要を紹介している頁と関連する論文等を、下記の Web ページで閲覧できます。

https://jagh.jp/activities/groundwater_database/（日本地下水学会）